

1 日目

視察施設：松坡老人総合福祉館

日 時： 6月9日 14:00～17:00

所在地：ソウル特別市松坡区三田孝行道 39

<視察内容>

松坡老人総合福祉館の事業概要の説明及び施設見学。
蓮花村の法人現況及び事業現況の説明。



<考察と感想>

日本で高齢化が叫ばれるようになって久しく、2013年に人口の4人に一人が、2035年には、3人に一人が65歳以上という高齢社会になると推測されています。

この問題は、日本だけでなく、今回訪問した韓国でも2020年には6人に一人が、2030年には4人に一人が65歳以上の高齢社会になるといわれ、高齢化の問題に関しては日本と同じ課題を抱えています。また、少子化においても同じく深刻な問題となってきています。

今回、見学させていただいた松坡老人総合福祉館や説明をいただいた蓮花村においては、社会福祉サービスのニーズを持っているすべての地域社会住民を対象にして、保健サービス、在宅サービス、自立能力を高めるための教育訓練など、地域の高齢者に必要な福祉サービスを提供し、家族機能の強化及び住民連帯感の助成を通じ、地域社会問題を予防・治療する総合的な社会福祉サービスの伝達機構として、地域社会住民の福祉増進の中心的な役割を担っています。

日本ではこのような職業訓練や就労支援を行う総合的なコミュニティ機能を持った施設はあまり例を見ないように思えます。このような地域のコミュニティ強化に重点をおいた効率的かつ総合的なサービスの提供と施設機能の構築は今後、地域包括ケアを推し進める日本においては必要かつ有効的なサービス提供形態のあり方として大変参考になると思います。



また、館長の説明の中で、日本の福祉施設と連携・交流を図りながら、日本の介護保険制度や福祉の実態を参考に、地域支援・認知症ケア・介護予防・職業訓練、就労支援に取り組んでいる。特に今後の課題とされる地域支援と認知症ケアについては、「あるがまま、楽しく、ゆったり」を合言葉に、「心から感じる、話し合いができる治療をする。」そして、幸せな高齢期を過ごすことが我々のミッション(使命)であると話されていたことが大変印象的でした。

今回の施設見学及び説明で、日本と韓国の高齢者福祉制度の違いを知ることができました。特に制度としての日本の介護保険と韓国の老人長期療養保険の大きな違いは、等級区分が7段階と3段階の違いです。等級幅を細かくすることで利用者ニーズに詳細に対応できる半面、等級境界線上の判断の苦慮など事務的な部分での課題も出てきます。また、制度・サービスの